



集落で最後の一軒になった家の田植え 豊田有希『あめつちのことづて』より

GⅢ－Vol.138

## 豊田有希写真展 あめつちのことづて

【同時開催】令和2年7月豪雨 REBORN プロジェクト

会期：2021年1月20日（水）－4月4日（日）

場所：熊本市現代美術館ギャラリーⅢ

時間：10:00－20:00 入場無料 火曜休館 \*但し2月23日（火・祝）は開館し翌24日（水）休。3月2日（火）、9日（火）は開館。

主催：熊本市現代美術館（熊本市・公益財団法人熊本市美術文化振興財団）

助成：公益財団法人 野村財団

\*熊本市現代美術館 GⅢ（ギャラリーⅢ）は熊本・九州ゆかりのアーティストを紹介するスペースです。

\*展覧会及び関連イベントは新型コロナウイルス感染拡大の状況により中止・延期する場合があります。

## あめつちのことづて

熊本市に生まれ、独学で写真を始めた豊田有希（とよだ・ゆうき 1987-）は、フィルムカメラでの撮影、そして手焼きのプリントでの制作を続けてきましたが、「山間地、半数に水俣病」と書かれた1枚の新聞記事をきっかけに、2012年から芦北町黒岩地区に通うようになります。

2015年に単身、水俣市に移住。2016年から同集落の農作業の手伝いなどをしながら撮り続けた、畑仕事や祭り、食卓、そこに住む人々のポートレートなどをまとめたシリーズが、この「あめつちのことづて」です。

この集落では、まだ道のない時代、行商人が不知火海の魚を担いで売り歩き、多く食されていました。しかし、近年になってから、水俣病の症状が住民の多くに出ていたことが判明します。当初は、対象地域から外れていたため救済が遅れたものの、過去の記録から住民と行商の証言が一致し、特別措置法案の対象と認められたのでした。

本展では、時代の波に翻弄されながらも、昔ながらの暮らしを営む同集落を撮った、未発表作品を含む約40点（予定）を紹介します。



上：稜線がどこまでも続く、対面する景色、下：茶摘の合間の休息

ともに豊田有希『あめつちのことづて』

### ●関連イベント

#### アーティスト・トーク

日時：2021年1月23日（土）14時-15時 参加無料 定員50名（先着順） 要予約

場所：熊本市現代美術館アートロフト

作家本人が作品を通して、水俣や黒岩地区の暮らしについて語ります。

#### 水俣まち歩き

日時：2021年3月14日（日）13時-17時 現地集合・解散 定員10名（先着順） 要予約

集合場所：水俣駅前（肥薩おれんじ鉄道）

参加費：3000円

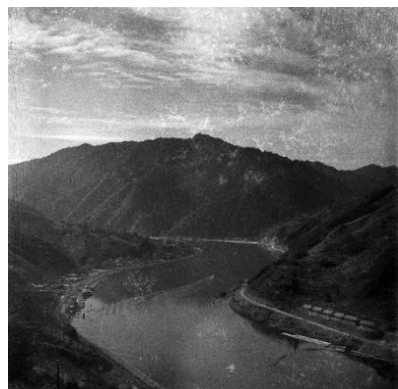
水俣と水俣病の‘いま’と向き合い伝える活動を続けている水俣病センター相思社スタッフの案内で水俣のまちを巡ります。

## 令和2年7月豪雨 REBORN プロジェクト

本プロジェクトは、写真家・豊田有希が中心となり、令和2年7月豪雨で水損した八代市坂本町に残るネガフィルムを、クリーニングしてデジタル化し保存、再プリントするものです。これらは、地元のアマチュア・カメラマン、故・東儀一郎氏、本村孝夫氏らが撮影したもので、昭和30年頃の旧・坂本村の暮らしの様子が写し出されています。同町でラフティング会社「Reborn」を営むリバーガイド・溝口隼平氏が、資料として譲り受け、整理・保管してきました。しかし、今回の水害でその多くが水没することとなりました。

この「REBORN プロジェクト」は、残ったネガフィルムを保存し公開することで、町の方々を始め多くの方と、坂本という土地の記憶を共有し、その再生(REBORN)を目指すものです。今回は、プリント展示のほか、復活した水損写真やネガをまとめた記録写真集を会期中に発行します。

助成：一般財団法人 熊本放送文化振興財団、日本財団



### ○関連イベント

#### ドネーションブック「REBORN」発行記念トーク

日時：2021年2月14日（日）14-15時 定員先着50名

要予約 無料

場所：熊本市現代美術館アートロフト

出演：溝口隼平（リバーガイド「Reborn」主宰）、  
坂本桃子（フリーライター／坂本出身）、豊田有希（写真家）

球磨地域での被災・復興の状況や川やダムをめぐる歴史や現在について語ります。

上：昭和29年12月27日 山の上から望むダム湖、水損した6×6フィルムよりデジタルデータ 下：撮影年月日不明 219号線から坂本町の中心部へと続く坂本橋。令和2年7月豪雨にて流失。水損の激しかった35mmカラーフィルムのデジタルデータ 撮影：東儀一郎氏

### ●水損ネガレスキュー作業時の風景（2020年7月、於：つなぎ美術館、熊本市現代美術館）



## 豊田有希（とよだ・ゆうき） 写真家



1987年、熊本市生まれ。2015年より水俣市在住。

高校時代から独学で写真を始め、2012年から本格的な活動を開始。その土地の風土や暮らしを見て得るだけでなく感じ得ていきたいと考え、現在は住んでいる地域の周辺を主なフィールドとして撮影を行っている。潜在化する人権や差別など社会問題への意識を根底に持ちつつ、土地や人物の魅力も同時に表現することを目指している。

### 主な展示

- 2012年 個展「追憶の街」 gallery ADO、熊本
- 2012年 個展「追憶の街」 konya-gallery、福岡
- 2019年 個展「あめつちのことづて」 u-39 プログラム、つなぎ美術館、熊本

### 主なワークショップ参加歴

- 2017年 「Regarding of the pain of others」（全6回）  
講師：小原一真、赤坂友昭（報道写真家） photo gallery-sai／大阪
- 2017年 「フォトドキュメンタリーワークショップ」  
講師：Q. サカマキ(写真家)、外山俊樹（朝日新聞映像報道部）、東京都写真美術館／東京
- 2018年 「六甲山国際写真祭」講師：ソラブ・フーラ（写真家/マグナム正会員）六甲山一帯／兵庫
- 2019年 「アンコールフォトフェスティバル」  
講師：アントワン・ダカタ、ソラブ・フーラ（写真家/マグナム正会員） シェムリアップ／カンボジア

### 主な受賞歴

- 2011年 「河原町アワード2011」加藤種男賞、konya-gallery 賞、HRD 原田明和賞
- 2020年 「THE BACKYARD PITCH GRANT」受賞

### 各イベントの申し込み及び

#### 本展に関するお問い合わせ：

熊本市現代美術館（担当：坂本）

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3

電話：096-278-7500

メール：sakamoto@camk.or.jp